

クリスチャンワーカーへの憧れ

二〇一六年十一月十六日

バイブル・サービス

白川 充

今回、学科長の私にバイブル・サービスの依頼がありました。バイブル・サービスについては思い出がありません。今から二十数年前になります。私は本学に来る前、青森県にある弘前学院大学というところにいました。そこでの新入教員に対する教育の一環として、バイブル・サービスをやったことがあります。それ以来のバイブル・サービスです。ですから、うまく話ができるかどうかわかりませんが、今日は、クリスチャンワーカーへの憧れというテーマでお話したいと思います。クリスチャンワーカーの定義については、いろいろな使われ方がされているようですが、「キリスト教の教えと信仰を大切にしながら、ソーシャルワーカーとして福祉の専門家として実践と研究を行う人」とします。

このテーマで話をしようと思いついた経緯は、昨年（二〇一五年）十月に大学基準協会の認証評価のため東京基督教大学に行ったことにあります。大学は七年に一度、しかるべき団体の評価を受けて、一定の水準に達しているかどうかを世に明らかにしなければいけないことになっています。本学も三年ほど前に大学基準協会の認証評価を受けています。大学基準協会は、それぞれの大学の先生方が持ち回りで委員を務め、相互に大学評価を行う仕組み

なっています。私はこれまで委員を四回務めています。今回のメンバーは、ルーテル学院大学の学長と上智大学神学部教授、手塚山大学学長室長の四名でした。

東京基督教大学が位置するところは、東京都内から電車で一時間以上離れ、喧噪を避けた穏やかな地区にありました。大学院と二学部二学科（神学部神学科・国際キリスト教福祉学科）で構成され、全寮制で学生数は二百名程度、そのうちの二十五パーセントが留学生でした。私たち委員は二日間にわたり、大学全体について実地調査を行いました。

東京基督教大学は教職員、学生の全てがクリスチャンです。そこで私は一枚のポスターと出合いました。今日の話はそこから始まります。ポスターには、石井十次、山室軍平、留岡幸助の写真がありました。この三人は明治時代の社会事業家です。そしてポスターには、こういう人たちを目指しましょうというメッセージがありました。私はしばらくそのポスターを見ながら、いろいろ考えました。

ここで、石井十次、山室軍平、留岡幸助の三人について簡単に紹介します。大学において社会福祉の歴史や思想を学ぶとき、この三名の名前は必ず出てきます。石井十次（一八六五〜一九一四）は、医者であり、岡山孤児院を創設した人物です。実に多くの子どもたちを救いました。東北で飢饉があった際には、宮城県や岩手県からも千人規模の子どもたちを岡山県へ連れて行ったという記録が残っています。石井はその生涯を子どもたちの福祉のために捧げた人です。ポスターには石井十次の写真が左端にありました。真ん中に写っていたのが山室軍平（一八七二〜一九〇〇）です。山室は日本救世軍の創立者で廢娼運動、職業紹介等の活動を展開しました。皆さんはご存知でしょうか、今でも年末になると救世軍の「社会鍋」が行われています。そして三人目の右端の人が留岡幸助（一八六四〜一九三四）です。この人は感化院（現在の児童自立支援施設に相当する）で非行少年たちの教育を行いまし

た。それを感化院教育といい、留岡は東京家庭学校、北海道家庭学校を創設しました。

この三人は、ともに岡山県人でありクリスチャンです。先ほどからお話しているポスターには、東京基督教大学で学んで、この三人のような人間となることを目指そうというメッセージが込められたものだったので。

私は、三人の中では留岡幸助が一番好きで、若いころに北海道遠軽町にある北海道家庭学校を訪ねたことがありますが。確か礼拝堂だったと思いますが、そこに「難有」と書いた額が飾ってありました。後でいろいろと調べ、話を聞いたところによると、「難有」というのは、「難が有るから『ありがたい』。人生には難が有る、この難を『ありがたい』と受け止められるか否か（それでその人の人生が変わる）」という意味でした。「ありがたい」と言うときに使うその言葉を、留岡幸助は、そういうかたちで子どもたちに伝えたのです。さらにもうひとつ額があり、それには「流汗悟道」と書いてありました。これも北海道家庭学校では有名な言葉で、簡単に言うと「汗を流すことによって己の生きていく道をつかむ」という意味です。暖かい部屋で美味しい物を食べて、のん気に過ごすのではなくて、北の大地で畑を耕し、牛を飼い、そういう中で汗を流すことによって自分の生きていく道をつかめるはずだという思いです。それゆえ留岡は、この北の大地に家庭学校を開設したと言われています。

実は、私は先ほどのポスターを東京基督教大学で見つけたとき、ずいぶん古いことを書いていると思いました。ただよく考えてみると、石井・山室・留岡の三人が明治時代にやったことは、現代の日本にも脈々と受け継がれている部分があるのです。ここからは、そのことをお話ししたいと思います。それがクリスチャンワーカーへの憧れです。

現代の日本を代表するクリスチャンワーカーはたくさんいますが、その中の代表は阿部志郎（一九二六〜）先生です。阿部先生は御歳九十歳になられますが、今もお元気です。滅多に講演はしなくなりましたが、全国を訪れ

ていると聞きます。阿部先生は現在も、神奈川県立保健福祉大学名誉学長、社会福祉法人・横須賀基督教会館会館長を務めています。横須賀基督教会館は、地域の中で困っている人や、地域の中で困っている問題があった時に、それに答えていくための福祉活動を、戦後からずっと行っているところです。

阿部志郎先生は、これまで日本ソーシャルワーカー協会会長、日本社会福祉学会会長、国際的には国際社会福祉協議会副会長を務め、東京女子大学理事長も歴任しています。私は幸運にも何回か阿部先生とお話しする機会に恵まれました。阿部先生は東京のご出身ですが、ご先祖が青森県ということで、津軽・弘前を非常に大切にしてくださいました。弘前学院大学には集中講義で何度か来ていただき、また大学の将来構想を考える際にも来ていただきました。そのような機会に緊張しながら、阿部先生と話したことというのは、何十年経っても鮮明に覚えているものです。

そのひとつが社会福祉法人・社会福祉施設における「世襲制」の問題です。少し専門的な話になりますが、現在、日本社会は高齢化の進展に伴い、社会福祉施設とそれを経営する社会福祉法人はかなり増えました。しかし今から三十年ほど前は、そういう施設の経営は限られていたのです。そこに「世襲制」の問題がありました。つまり父親が経営していたところに息子が帰ってきて跡を継ぐ、あるいは祖父が経営していたところを息子が跡を継ぎ、その子どもがまた跡を継ぐ。それが「世襲制」です。われわれが若い頃、社会福祉施設経営の「世襲制」について批判したのは、そのようなかたちで社会福祉施設・社会福祉法人を経営していくと、志のある人が社会福祉施設を新たに経営することができないという点です。社会福祉施設・社会福祉法人がまるで個人商店のように、その財産や経営を受け継いでいく体制で本当にいいのだろうか。そのことを私は阿部先生にぶつけたことがあります。

そのときの阿部先生は、「君の言うこともわかるが、世襲する側の覚悟、その信仰や思想を受け継いでいく覚悟

というものの重さを担っていることをわかってもらいたい」と言われました。私は「世襲制」のネガティブな部分を指摘したのですが、そのポジティブな部分を見逃していたことに気づき、ハッとしたことを感じています。阿部先生は、社会福祉学・ソーシャルワーク研究を行う私たち世代の憧れであり、先生のようにになりたい、先生の話を聞きたいという思いがありました。そういう意味で阿部先生は、現代を代表するクリスチャンワーカーであると同時に、私たちが目指すべき人なのです。

クリスチャンワーカーへの憧れとして、次に学会の話をしたと思います。私たち大学教員は、一定の年齢になると学会の理事に選ばれることがあり、現在、私は、日本ソーシャルワーク学会と日本社会福祉教育学会の理事を務めています。日本ソーシャルワーク学会は会員数が約六五〇人で理事が二〇人程度の小さな学会ですが、その理事会の中に同志社大学や関西学院大学の先生方が何人かいます。特に同志社大学からは五名の先生が理事に選ばれています。彼らの中に、キリスト教の信仰をベースに社会福祉学・ソーシャルワークに関する学問と実践を行ってきた同志社の歴史の重さや誇りを、敢えて語らなくてもこちら側が感じることがあります。また、自分たちが育ててきた人材に対する自負も強く感じます。先ほど紹介した山室軍平は、同志社を途中で辞めています。留岡幸助も同志社出身です。同志社は明治の頃からそういうクリスチャンワーカーを育ててきたのです。それが現代においても脈々と続いているのです。

私が昨年、東京基督教大学で見た一枚のポスターには、石井・山室・留岡の写真があり、そこに学ぶ学生に対して、こういう人たちになろうというメッセージがありました。それが意味では時代錯誤的だと思いつつも私がか心を惹かれたのは、私自身の中にあるクリスチャンワーカーへの憧れということだったのだと思います。

言うまでもなく、キリスト教の教えと、社会福祉学・ソーシャルワークの理念、思想というのは深く重なる部分

があります。キリスト教社会福祉学会という学会もあり、ここではキリスト教と社会福祉学・ソーシャルワークの理念、思想について喧々諤々と議論しています。本日のバイブル・サービスを契機として、ぜひ学生にキリスト教と社会福祉学・ソーシャルワークの関係について、丁寧伝えていきたい思います。

(心理福祉学科教授)